

厚生環境委員会委員協議会記録

1 会議の日時	令和4年11月18日(金)	開会 午後 0時56分 閉会 午後 1時58分
2 会議の場所	議会西棟3階 第1会議室	
3 出席者	委員	委員長 長屋 光征 副委員長 今井 政嘉 伊藤 正博 松村 多美夫 佐藤 武彦 伊藤 秀光 小原 尚 森 益基
	執行部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	課長補佐 市川 達也	主査 柘植 健太

5 会議に付した案件		
件	名	審査の結果
1	新型コロナウイルス感染症への対策について	
2	県有文化施設におけるデジタル技術を活用した文化芸術の振興について	

6 議事録（要点筆記）

○長屋光征委員長

ただいまから厚生環境委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るため開催する。

本日の執行部の出席者については、議題に関係する所属に限定している。

それでは、議題1として、新型コロナウイルス感染症への対策について、執行部から説明をお願いする。

（健康福祉部長挨拶の後、健康福祉部次長（調整担当）が資料に基づき報告）

○長屋光征委員長

ただいまの説明に対して、質問等はあるか。

質疑は、一問一答でお願いします。

○森益基委員

コロナの影響により、地元公立高校の1、2学年が学年閉鎖をしていると聞いた。県として、県内学校の学年閉鎖の状況は常に把握しているのか。

○小山感染症対策推進課長

学級・学年閉鎖の状況を学校に登録してもらうシステムを備えており、当該システムを通じ、状況を毎日確認している。なお、直近11月11日～17日までの県内公立高校等の学年閉鎖は4件となっている。

○森益基委員

前述の高校では、受験等を控えた3年生は学年閉鎖となっていない。感染予防のための自己管理の徹底によるものと考えられるため、今後も感染予防方法等についてしっかりと広報していただきたい。

○松村多美夫委員

かかりつけ医で新型コロナの陽性が判明した後、患者がその後の対応についてよく分からず混乱したとの話を聞いた。陽性者がとる今後の行動をまとめたもの等を医療機関を通じて配布するなど、何か対応はしていないのか。

○小山感染症対策推進課長

必要な療養の種別に応じた対応を分かりやすく示したチラシを県で作成し、医療機関を通じて陽性者に提供している。

○松村多美夫委員

副反応を懸念して新型コロナワクチンの5回目接種を忌避する方がいる。ワクチンに関する広報の実施状況は。

○中野感染症対策推進課ワクチン接種対策室長

本日の中日新聞県内版に広告を掲載するなど、安全性やワクチン接種の効果を広報しているところ。

国の審議会においても、オミクロン株対応ワクチンは従来型ワクチンと比較して安全性が変わらない

ものとされており、県では引き続き、新聞広告・動画・ツイッターなどの媒体を通して、接種の重要性などを広報していく。

○松村多美夫委員

新規陽性者数が右肩上がりが増えていますが、県としては第8波に入ったという認識なのか。

○堀健康福祉部長

これまでは、主流となる株が変わり感染が広がった際に、新たな波の発生とされることが多いと認識している。現在、新規陽性者数が増えつつあるが、県内で流行している株は第7波と同じBA.5である。新たな株への置き換わりが進んでいる状況ではないが、専門家の意見を聞きながら、局面について注視していきたい。

○小原尚委員

ケルベロス、グリフォンといった新たな変異株への対策は。

○堀健康福祉部長

陽性者に対して、一定頻度で圏域・年代を幅広く取ってスクリーニング検査をしており、以前にないような変異が見られたものについてはゲノム検査を行っている。今後も新たな変異株の状況をしっかりと確認しながら対応していく。

○佐藤武彦委員

知事メッセージ「感染急拡大の徹底阻止」において、「新規陽性者が全国平均を上回る勢いで増加」との記載があるが要因は。

○後藤感染症対策調整課長

現在、岐阜県では飛騨地域での感染者が増加している。全国単位でも、北海道や東北など寒冷地での感染者が多い傾向にあるとみられることから、寒冷地を有する岐阜県でも増えていると考えられる。

○佐藤武彦委員

10代以下の若者が陽性者全体の約3割を占めているという状況については、どのように考えるか。

○後藤感染症対策調整課長

夏休みが明けて学校が始まり、若者同士が接触する機会が増えたことが要因となっていると考える。

○佐藤武彦委員

そのような状況に対する対策は十分か。

○後藤感染症対策調整課長

現在、教育委員会では、学級で1人でも陽性者が出ると一時的に学級閉鎖をし、接触者を特定してから再開するという感染拡大防止対策をとっている。今後の感染状況を踏まえ、部活動や習い事等の場における対策の更なる徹底について、今以上に取り組んでいかなければならないと考えている。

○佐藤武彦委員

今後、新規陽性者数が増えてきた場合に、県は第7波と同様の厳しい方針でもって対応するのか。国が対策を緩和していることや、全国旅行支援が始まっていること等を踏まえて、以前の強化宣言のような厳しい対策を取ることには慎重な姿勢を取るのか。

○堀健康福祉部長

国は、感染状況の新たなレベル分類を示すとともに、都道府県が「対策強化宣言」を出すことができる旨を示している。本県がレベル判断をどのようにしていくか、またその後どのような対応をとるかにについては、今後、専門家の意見を聞きながら検討していく。

○伊藤正博委員

ワクチン接種の進捗状況は。

○中野感染症対策推進課ワクチン接種対策室長

県内で広く接種が進められているオミクロン株対応ワクチンの接種率は、11月16日時点で、県内の総人口ベースで13.9%、全国平均が11.5%である。本県の接種率は全国5位となっており、全国平均を上回るペースで接種が進んでいる。

○伊藤正博委員

県民の接種に対する理解が接種率の高さに結びついていると考えるため、ワクチンがコロナ対策への有効な手段ということで、引き続き啓発に力をいれてほしい。

現在、病院での看取りの際、家族であっても2人までしか病室に入れない対応が広く行われているようだが、その理由は。

○小山感染症対策推進課長

新型コロナ患者については、過剰な対応を取らないよう国から通知が出ているが、その他の一般的な入院患者への対応については、各病院の判断に任せている。

○伊藤正博委員

新型コロナ患者への対応なら理解できるが、一般の疾病による看取りの場合は、2人といった極端な人数制限をしなくてもよいのではないかと。県として、病院の状況を調査・把握していただきたい。

○伊藤秀光委員

市町村の所管する火葬場において骨上げなどに人数制限を設けているところがあり、最後のお別れができず、非常につらい思いをしている方がいると聞いた。どのような状況であるかを調査し、対応をお願いしたい。

○今井政嘉副委員長

新型コロナの無料検査について、12月末までの実施とされているが、これから年末年始を迎えることを考えると、期間を延長すべきと考えるが、どうか。

○寺島感染症対策推進課管理調整監

期間の延長については、原則として1か月単位で国と協議している。実施の条件として、直近の感染状況を踏まえることとなっているため、年末年始の人流想定や感染状況を踏まえて協議していく。

○今井政嘉副委員長

県外在住者は無料検査の対象とならないのか。

○寺島感染症対策推進課管理調整監

無料検査は県内在住者を対象として実施することとされているため、他県から岐阜県に来られる方については、出発前に在住する県で検査を受けていただくことが原則となっている。

○長屋光征委員長

現在のインフルエンザの発生状況は。

○小山感染症対策推進課長

インフルエンザの発生状況については、特定の医療機関での受診者数を定点把握している。定点医療機関あたりの平均患者数が1を超えると流行入りとなるが、11月7日からの7日間では約0.01であり、現在のところ県内での流行の兆しはない。全国でもほぼ同様の状況である。

○長屋光征委員長

引き続き、状況を注視していただきたい。

利用している飲食店が閉店すると聞いた。新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金の支給はあったが、コロナによって客足が減った影響によるもので、飲食店はどこも厳しい状況にある。商工労働部等と連携をとって対応いただきたい。

○長屋光征委員長

質疑も尽きたので、これをもって議題1を終了する。

続いて、議題2として、県有文化施設におけるデジタル技術を活用した文化芸術の振興について、執行部から説明をお願いする。

(文化伝承課長が資料に基づき報告)

○長屋光征委員長

ただいまの説明に対して、質問等はあるか。

質疑は、一問一答でお願いする。

○長屋光征委員長

現代陶芸美術館の「3Dコレクションギャラリー」は現在も同館のホームページで閲覧できるのか。

○河田文化伝承課長

現在も閲覧可能であり、公開所蔵品数を順次拡充予定である。

○長屋光征委員長

非常に良い取組であるが、ホームページでのアクセス方法が分かりにくい。機器操作が苦手な方であっても容易にアクセスできるよう、工夫していただきたい。

○松村多美夫委員

ホームページでの所蔵品公開に要する経費はどの程度か。

○河田文化伝承課長

現代陶芸美術館を例にとれば、予算は600万円。主に、システム開発に相応のコストがかかったもので

あるため、今後の運用面での経費は落ち着いていくものと見込んでいる。また、著作権関係で公開不可の所蔵品もあるため、どの所蔵品が公開できるかについても慎重に確認しながら進めていく。

○松村多美夫委員

美術館においても同様の取組は行っているのか。

○河田文化伝承課長

同様の取組について準備を進めている。

また、AR技術（拡張現実）を活用し、3DCG化した美術館所蔵品を好きな場所に飾り、家にいながら美術鑑賞を楽しむことができる取組も実施している。

○松村多美夫委員

著作権の問題はないのか。

○河田文化伝承課長

著作権フリーになっている所蔵品や著作権者の許可を得た所蔵品に限って活用している。

○伊藤秀光委員

委員長からも要望があったが、県民に取組を広く知っていただくためにも、機器操作が苦手な方にも分かりやすいホームページ構成にしていきたい。

○河田文化伝承課長

各ホームページについて、細かく目配りして対応する。

○長屋光征委員長

「地芝居大国ぎふWebミュージアム」について、ホームページ作成及び維持にかかる経費はどの程度か。

○河田文化伝承課長

約600万円である。

○長屋光征委員長

他部局においても、ツイッターやInstagramによる情報発信を行っている。他部局とリツイートし合う等、フォロワーを増やすための部局間連携を検討していきたい。

○長屋光征委員長

質疑も尽きたので、これをもって議題2を終了する。

以上で本日の議題は終了したが、他に意見等はないか。

また、執行部の方もよろしいか。

(発言する者なし)

○長屋光征委員長

意見もないので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

厚生環境委員会委員協議会配席図

令和4年11月18日(金)

議会西棟 第1会議室

